

その他の議論事項

- ①自治体の参加ステータス区分、データ収集方法
- ②最終的な表彰の方法、民間企業の巻き込み方
- ③報道関係への伝達方法

①自治体の参加ステータス区分、データ収集方法

- 6月10日のシンポジウムで登壇しない自治体も含めて声かけは継続
- 興味を示した自治体に対しては、幹事内で担当を決め、6～8月にかけてコンタクトを取って自治体ごとの課題を整理
- お悩みリスト(データチャレンジの指定課題リスト)について、課題の内容によってソリューション提供できる主体(建コン、測量、ソフトウェアハウス、大学等)が異なることが想定されるため、お悩みリストはバラエティに富むよう留意する
- 自治体の参加ステータス区分→自治体にどうメリットをもたらせるか
 - 課題スポンサー
 - データスポンサー
 - 一般参加者(意見交換等にのみ参加するが、データ、課題共に出さない)
- データ収集方法
 - 上記のコンタクトを通じて、6～8月にかけてデータも収集する
 - 最低限の目標としては、参加・協賛、既公開データの2次利用許諾を得ること
 - 想定するデータのバリエーション
 - もともと公開のもの
 - AIGIDのみに公開しているもの
 - 今回のデータチャレンジだけに公開するもの

②最終的な表彰の方法、民間企業の巻き込み方

- 想定しているプロセス
 - 6月10日のCSISシンポジウムや、各自治体とのやり取りの中で明らかとなった課題を、指定課題としてリスト化してデータリストと共に公表
 - 10月までを目処に協賛企業の募集
 - 2月中旬にアイデア、アプリ、データセットの募集を締切り
 - 3月までに評価
- 賞金を設定(素案)
 - 金賞30万円×1口
 - 銀賞15万円×2口
 - 銅賞5万円×10口
- アプリの実装まで行う主体に対して、実装にかかる費用の補助金を渡すことも一案
 - アプリケーション作成助成30万円×5口
- 一旦出されアイデアをもとに、それを別の主体がアプリとして実現するような流れを入れるか(自治体職員などはアイデアを持っていてもアプリの実装までは難しいことも想定される)

③報道関係への伝達方法

次回実行委員会の主な検討事項

- 自治体のお悩みリスト速報
- 8/2のイベント内容
- 自治体からのデータ収集に関する方針
- 実行委員内の役割分担
- その他